

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 16 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520314

研究課題名（和文） ユダヤ系亡命ロシア文学の研究

研究課題名（英文） The Study of Jewish-Russian Literature in Exile

研究代表者 ヨコタ村上 孝之

(YOKOTAMURAKAMI TAKAYUKI)

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授

研究者番号：00200270

研究成果の概要（和文）：順調に研究成果が生み出されつつある。米国在住のユダヤ系ロシア文学者のデータベース化の作業はほぼ完成し、近々、ホームページなどで公開予定である。研究期間中、米国、ロシア、ラトビアなどに出張し、資料収集に努めたが、貴重な資料を数多く発見し、これらを取り込んだ研究論文を成果としてすでに単行本収録論文を四本、学会誌発表論文を三本、発表しているが、さらに総括的な研究論文二本を現在、執筆中であり、平成 24 年度中にこれを完成し、刊行する予定である。学会発表も 10 件行い、国際学会で成果を報告した。

研究成果の概要（英文）：The outcome of the research activities is being accomplished as planned. The work on the digitalizing the data of Jewish literati in the United States is almost done and the database is scheduled to be published on my homepage and elsewhere soon. During the grant period I made several research trips to the States, Russia, Latvia and so on and managed to find quite a number of hitherto unknown, valuable new materials. Analyzing them, I have already published four articles in the collections of essays and two papers in the academic journals (peer-reviewed). Currently, I am finishing two more articles with a more comprehensive nature and they are to be completed and published in the current academic year. I have made ten presentations on the grant topic in the international conferences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
23 年度	700,000	210,000	910,000
24 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：比較文学 ロシア文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：ロシア文学 ユダヤ文学 亡命文学 ディアスポラ

## 1. 研究開始当初の背景

科学研究費受領者は極東ロシア文学の研究をここ数年にわたって行ってきたが、このことはロシア文学という国民文学的伝統の

中で、周縁にあった文学者たちの重要性を認識させることになった。さらには、この「辺境」の地に実はユダヤ人が多数、存在し、文化的に重要な役割をしていたこと、それらの

多くが革命後、および第二次大戦後、米国、オーストラリア、南米諸国などへ亡命し、そのことによってディアスポラの問題を深化させていたことを意識させた。こうした発見が本研究の構想につながったのである。

申請者もドイツ系ユダヤ人作家であるヨーゼフ・ロートの作品を論じたことがある。ロシア文学やユダヤ文学の枠外では、エドワード・サイード、ホーミ・バーバ、ガヤトリ・スピヴァク、クワメ・アパイアらが亡命文学、越境、雑種性、異文化理解・交流などに関する、重要な理論的寄与をしてきたこのような研究蓄積をさらに進化させて、とくに米国におけるユダヤ系ロシア人文学者（彼らは世界のほかの地域に比べて顕著な活動を行っていた）について明らかにしようというのがそもそもの問題意識であった。

## 2. 研究の目的

本研究は、19世紀末から現代にいたる、主に米国在住のユダヤ系亡命ロシア人作家を可能な限り総括的に取り上げ、その伝記的事実を発掘し、検討し、またその作品に比較文学やポストコロニアル文学理論などに基づく分析を加えることによって、文化・言語の雑種性・越境性というものが、極端にねじれた状況においてどのように機能するのかを考察することを目的とする。ロシア文学史では必ずしも十分な注意を払われておらず、理論的にも解明されてこなかった領域を補完するとともに、亡命・移民・ディアスポラ文学および文化に関する一般理論の深化を図ろうというものである。

本研究は、このユダヤ人文学の研究というものに、さらに「ロシア（あるいはひろくスラブ圏）」および「(米国) 亡命（または移住）」という、二つの分析軸を付け加えようという試みである。ロシアを軸に加えるのは、一つには申請者の専門がロシア文学であり、在外ロシア文学についての研究なども積み重ねつつあるからであり、また、ロシアが米国以前に最大のユダヤ人人口を抱えた国であるからだが、さらには、ロシア（文化）とユダヤ（文化）の関係がかなり特殊なものだからでもある。ロシア在住のユダヤ人は、ほかの地域のユダヤ人と比べると、ロシア文化に融合した度合いが高く、言語もロシア語中心でイディッシュを話す者は少なかった。そのために、イスラエル建国以後、同地に移住したロシア系ユダヤ人が、イスラエル国内で適応問題を起していることはよく知られている。同時にロシア国内では、ユダヤ人は——ポグロムの存在を通じても分かるように——完全に周縁化され、隔離されてもいる。ロシアのユダヤ人にとってユダヤ性とは、異郷にあってのネーティヴなものというのでもなく、異質であり同時に同質的であるという、両義

的な何かなのである。こうしたユニークな問題系として、ユダヤ系ロシア文学の研究というテーマは構想された。

このような二重性・両義性にさらに「(米国) 移住」という問題軸を導入することによって、事態はさらに複雑化する。米国におけるユダヤ人は、したがって、文化的・言語的・政治的に、二重三重の意味で異郷にあるとすることができだろう。

「国民文学」の枠をこのように顕著に超える事象を取り扱うことによって、複雑性の中に文学・言語・政治・文化の相互関係を捉えなおそうというのが本研究の究極的目的である。

## 3. 研究の方法

研究遂行のための手段として、まず初めに、ユダヤ系亡命ロシア人文学者のデータベースの作成をめざした。そのために「ユダヤ性」に関する歴史的・文化的理論の反省を行った。

データベース構築に際しては、作家の分類も平行して行った。すなわち、自己のユダヤ性を明確にし、文学的テーマとしても深く関わり続けた、セミヨン・ユシュケーヴィッチ、ソロモン・ポリャコフ＝リトフツェフのような作家を第一のカテゴリー、はっきりとユダヤ人であったが作品にはそのことがあまり窺われなかったり、あるいはむしろコスモポリタニズムに傾斜しようとしたグループがボリス・パステルナークやヨシフ・ブロツキーのような第二のカテゴリー、エラーギンのようにユダヤ性を拒否あるいは隠蔽していたグループが第三のカテゴリー、あるいは、エラーギンはそのユダヤ人としてのアイデンティティが不明確な、第四のカテゴリーに入ることが分かりその区別をデータベースに反映させた。このような分類は、後に作品を分析する際に役立った。こうして、対象となる作家の経歴、出自、使用言語、筆名、主な作品とその形態（詩作、フィクション、批評など）、出版物、その所蔵先、交友関係、受賞歴、関連アルヒーフなどを包摂した、総合的データベースの構築を行った。創作形態の違いは、文学者が越境するあり方に差異をもたらす要因だと考えられるので、その意味に留意した。さらに、そのリストをもとに、作品のなるべく網羅的な収集を試みた。稀観書の類が多いので、ロシア、米国などの専門図書館での閲覧・複写が必要になった。収集された作品に基づき、具体的分析と理論的知見の深化を目指した。そのため近年の亡命・移民文学・文化理論の把握と再検討が要請されたので、それを行った。ユダヤ性とユダヤ教の教義は一致するという立場もあるので、宗教学上の文献にも目を配り、分析に役立った。そして、作品分析を通じて「他者性」、「越境」、「国民国家」、「民族言語」、「民族文化」

などに関する一般的理論の提示を図り、ひいてはグローバリゼーション、コスモポリタリズムのあるべき形態についても提言を試みようというものであった。

#### 4. 研究成果

米国在住のユダヤ系ロシア文学者のデータベース化の作業はほぼ完成し、近々、ホームページなどで公開予定である。在外ロシア文学についての研究は近年、ロシア国内でも諸外国でも盛んにおこなわれているが、「ユダヤ」という枠組みにおいてこれを特化し、書誌化した研究はなく（それは、しばしばユダヤ性というものが隠蔽されているからである）、本研究課題の成果であるデータベースはこの意味で後続の研究にとって、大きな意義をもつことが期待される。

研究期間中、米国、ロシア、ラトビアなどに出張し、資料収集に努めたが、貴重な資料を数多く発見し、これらを取り込んだ研究論文を成果としてすでに単行本収録論文を四本、学会誌発表論文を三本、発表しているが、さらに総括的な研究論文二本を現在、執筆中であり、平成24年度中にこれを完成し、刊行する予定である。学会発表も10件行い、国際学会で成果を報告した。

これらの研究発表・刊行を通じて明らかにしたことであるが、本研究課題の研究を通じて、ユダヤ性は隠蔽されていたが、他言語による執筆という歴史的状況のため、アイデンティティーの喪失は起らず、ナショナリズムの克服がしばしば観察されたこと、言語の問題はユダヤ人の自己アイデンティティーではなく、むしろ他者による表象により明らかであったこと、したがってそれがコスモポリタニズムという両義的な表象に結びついていったこと、米国の英語帝国主義の状況の中では、しかし、ある一定の、言語的コンフリクトがユダヤ系ロシア文学者の中に見られてことなどが、研究成果として明らかにされた。

以上のような成果をもとにして、現在、それをまとめた著書を執筆中であり、一、二年の間に刊行することを目標にしている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① Yokotamurakami, Takayuki. "The Sexual Body in Exile: The Somatic Politics of the (White) Russian and Russian Jews in Manchuria and Japan." *New Zealand*

*Slavonic Journal.* 44 (2010): 13-26.

- ② Yokotamurakami, Takayuki. "Espionage as a Strategy of Literary and Cultural Politics." *Neohelicon* (2010) 37:449-455.
- ③ Yokotamurakami, Takayuki. "Representation of Crimea in Late 19th and Early 20th Century Japanese Literature and Philosophy: Lev Tolstoy's Sevastopol Sketches and Its Legacy." *JSEES* 31 (2010): 23-34.

[学会発表] (計10件)

- ① Yokotamurakami, Takayuki. "From "Tiryagyoni" through "Animal" to "Ferus": A Critique of Western Religious Thinking with L. Tolstoy, V. Rozanov, and F. Kafka." The annual meeting of the Committee of Literary Theory of ICLA on the theme of "Animals and Literary Theory. Richmond University. May 19, 2012.
- ② Yokotamurakami, Takayuki. "A Curious Literary Connection of a Russian and a Japanese Modernist in the Margin of Empires: "Colonial Expatriation" in Harbin of Aleksandr Vertinsky and Jiromasa Gunji." The International Conference. "Literature in Expatriation." Emanuel University. Oradea, Romania. May 4, 2012.
- ③ Yokotamurakami, Takayuki. "The Empires and Esperanto: Futabatei Shimei and Postnikov." The 27th Russo-Japanese Academic Symposium. Institute of History. Far Eastern Russian Academy of Sciences. Sept. 2011.
- ④ Yokotamurakami, Takayuki. "Narrativity and Scientificity: The Emergence of the Genre of Novel in Modern Japan and Its Connection to Psychology and Neurology." The Workshop of the Literary Theory Committee. ICLA. LMU. Munich. July 2, 2011.
- ⑤ Yokotamurakami, Takayuki. "Judaism as Apostasy: The Two Narratives on The Apostate Julianus and Their Construction of History." The International Conference: "Myth and Subversion in the Contemporary Novel." University of Madrid. March 10, 2011.
- ⑥ Yokotamurakami, Takayuki. "Jewish-Russian Literature and the Anti-Cosmopolitanism Campaign: On the (Im)Possibility of the Recuperation of Cosmopolitanism." The National Convention of Japan Russian Literature Association. Kumamoto Gakuen University. Nov. 7, 2011.
- ⑦ Yokotamurakami, Takayuki. "Constructing Russian-Jewish National Identity through Language: The Case of Ivan Elagin." At the

annual convention of *PAMLA*. Honolulu. Nov. 13, 2010.

- ⑧ Yokotamurakami, Takayuki. "Role of Translation in Nation Building, Nationalism and Supra-nationalism" New Delhi, December 16-19, 2010.
- ⑨ Yokotamurakami, Takayuki. "The Sexual Body in Exile: The Somatic Politics of the (White) Russian (Jews) in Manchuria and Japan." Victoria University of Wellington. New Zealand. Aug. 28, 2010.
- ⑩ Yokotamurakami, Takayuki. "Cosmopolitanism in the Context of Soviet Ideology: A Perspective Through the Fate of Russian-Jewish Literature." ICLA convention. Aug. 16, 2010. Seoul.

[図書] (計 3 件)

- ① Yokotamurakami, Takayuki. "Imperiia i esperanto: Futabatei Shimei i F. Postnikov." Materialy XXVII rossiisko-iaponskogo simposiuma istorikov i ekonomistov DVO RAN i raiona Kansai (Iaponia). Vladivostok: Dal'nenauka, 2012. 150-161
- ② Yokotamurakami, Takayuki. "The Creation of 'A Lady': Gender and Sexual Politics in the Earliest Japanese Translations of Walter Scott and Charlotte Bronte." In *Re-engendering Translation: Transcultural Practice, Gender/Sexuality and the Politics of Alterity*. Ed. Christopher Larkosh. Manchester, UK: St. Jerome, 2011. Pp. 91-110.
- ③ Yokotamurakami, Takayuki. "Samurai i blondinka: dve imperii v Harbine v proizvedenii Gunji Jiromasa." Materialy XXV rossiisko-iaponskogo simposiuma istorikov i ekonomistov DVO RAN i raiona Kansai (Iaponia). Vladivostok: Dal'nenauka, 2010. 100-111.

[その他]

ホームページ等

[www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami](http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

ヨコタ村上孝之 (YOKOTAMURAKAMI TAKAYUKI)

大阪大学言語文化研究科・准教授

研究者番号：00200270

### (2) 研究分担者 なし

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし  
( )

研究者番号：